

2022年3月期 第2四半期
連結決算概要

2021年11月5日

日本リーテック株式会社
(証券コード：1938)

■ 業績要旨

- ・ 前期比、**減収減益決算**となった。

■ 主な要因（対前期比）

- ・ 受注高は、257億円と**対前年同期比58億円の増加**となった。
新型コロナウイルス感染症の影響により取引先の設備投資計画見直しや発注時期の延期等があったものの、屋内外電気設備部門および送電線設備部門における大型プロジェクト工事の受注等が寄与し、対前年同期比で増加となった。
- ・ 売上高は、210億円と**対前年同期比11億円の減少**となった。
工事の進捗に対する新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であり、施工は順調に推移したが、前年度からの繰越工事が減少したことに加え、一部工事において東京オリンピック・パラリンピック期間の作業規制等も影響し、対前年同期比で減少となった。
- ・ 営業利益は、▲4億円と**対前年同期比17億円の減少**となった。
売上高の減少に加え、工事の受注条件が厳しさを増しており、対前年同期比で減少となった。
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、▲2億円と**対前年同期比13億円の減少**となった。

連結損益計算書



(単位：億円)

	2021年3月期 2Q実績		2022年3月期 2Q実績		前期比	2022年3月期 通期予想	
受注高	199		257		+58	-	-
売上高	221		210		▲11	553	
営業利益	12	5.7%	▲4	▲2.1%	▲17	33	6.0%
経常利益	16	7.3%	▲3	▲1.5%	▲19	34	6.3%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	11	5.2%	▲2	▲1.2%	▲13	24	4.4%

※ 公表値は、決算短信で公表している通期の予想値となります。

※ 記載されている割合は、利益率を表しております。

※ 前期比含め各数値は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率は単位未満を四捨五入しております。(以降同様)

連結貸借対照表

(単位：億円)

	20/09 2Q 実績	21/09 2Q 実績	増減
流動資産	429	429	+0
固定資産	347	363	+16
資産合計	776	793	+16
流動負債	187	188	+1
固定負債	67	70	+3
負債合計	254	259	+4
純資産合計	521	533	+12
負債純資産合計	776	793	+16
自己資本比率	67.2%	67.3%	+0.1P

※自己資本比率 = (純資産-非支配株主持分) / 総資産

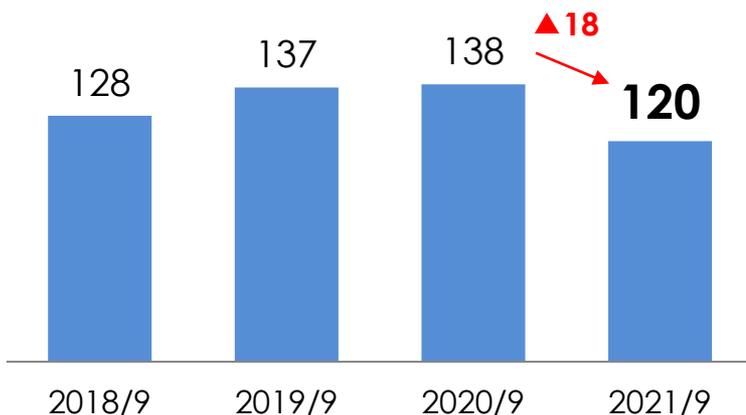
■ 主な要因（対前期比）

- ・流動資産は、大型工事進捗に伴う完成工事未収入金の増加、コミットメントライン契約枠を考慮し現金預金水準を減少させたこと等により、前期比同水準となった。
- ・固定資産は、大阪中津ビル改修や秋田支社取得等に伴う有形固定資産の増加、保有する上場株式時価評価額の増加等により、前期比16億円の増加となった。
- ・固定負債は、工事用車両に対するリース債務の増加等により、前期比3億円の増加となった。
- ・自己資本比率は、67.3%と前期比0.1P上昇した。

■ 受注高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



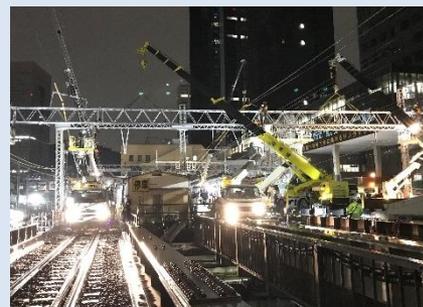
■ 売上高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



主なポイント

- 受注高については、117億円と前期比15億円の増加となった。安全性や安定性に資する工事、老朽化に伴う維持・更新工事等で受注を確保した。
- 売上高については、120億円と前期比18億円の減少となった。施工は順調に推移したものの、前期からの繰越工事の減少等が影響した。

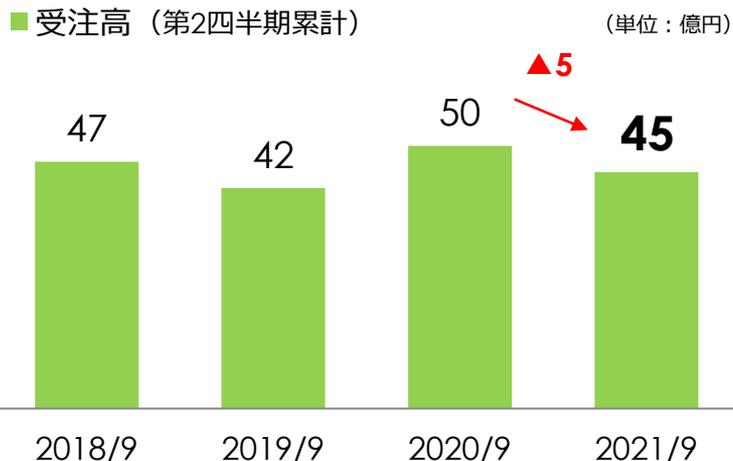
主な施工実績 (進捗中案件含む)



ホーム幅電車線路設備改良 (東京都)



交流変電所電力機器新設 (東京都)



主なポイント

- 受注高については、45億円と前期比5億円の減少となったものの、主に高速道路における標識補修及び通信設備、交通信号機改良工事等、安定した受注を確保している。
- 売上高については、30億円と前期比同水準となった。上記の標識補修に加え、全国の交通信号機工事など堅調に推移している。

主な施工実績 (進捗中案件含む)

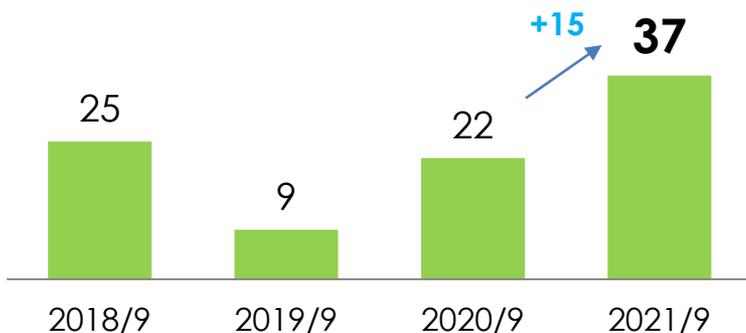


東名高速道路標識改良
(静岡県)

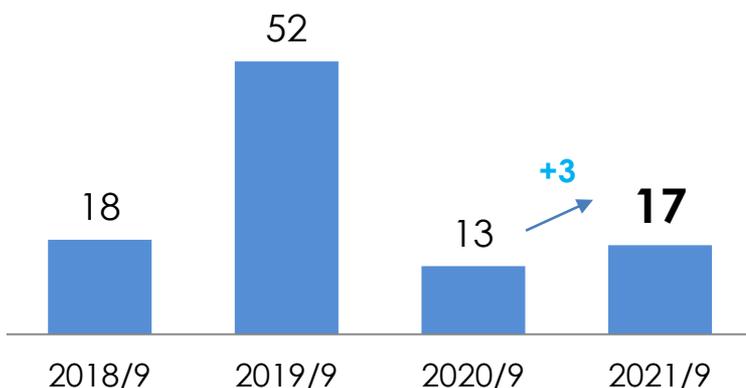


首都高速道路恒久足場設置
(神奈川県)

■ 受注高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



■ 売上高 (第2四半期累計) (単位: 億円)



主なポイント

- 受注高については、37億円と前期比15億円の増加となった。都市開発事業による大型プロジェクト工事のほか、教育機関やスポーツ施設の電気設備改修を複数受注した。
- 売上高については、17億円と前期比3億円の増加となり、概ね例年ベースの売上となった。
※2019年度は大型太陽光設備工事の売上計上により大幅増

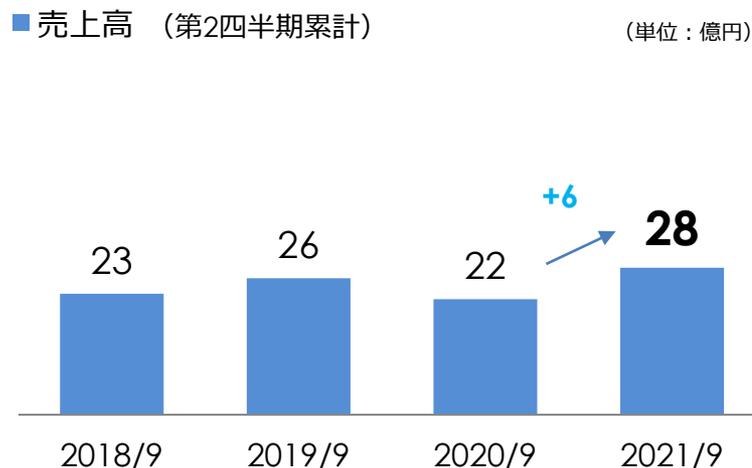
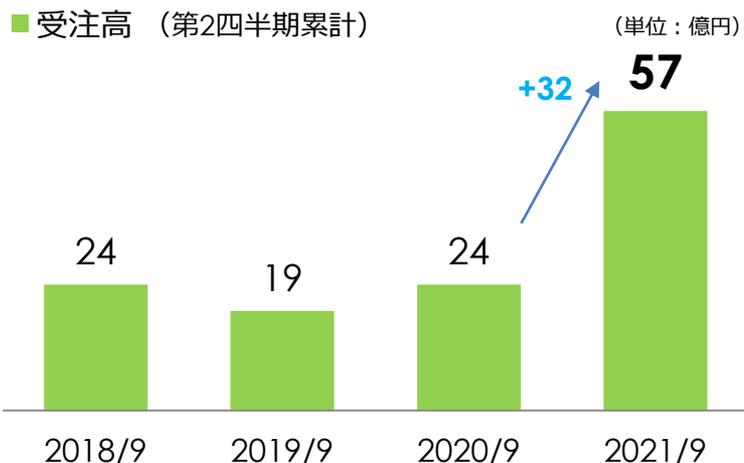
主な施工実績 (進捗中案件含む)



ホテルメッツ赤羽客室他改修 (東京都)



都立光明学園北棟電気設備新設 (東京都)



主なポイント

- 受注高については、57億円と前期比32億円の大増加となった。地域間連系線工事やルート変更工事、幹線増強工事など大型プロジェクト工事を複数受注したことによる。
- 売上高については、28億円と前期比6億円の増加となった。前期から繰り越した大型の地域間連系線工事の完成等、堅調に推移している。

主な施工実績 (進捗中案件含む)



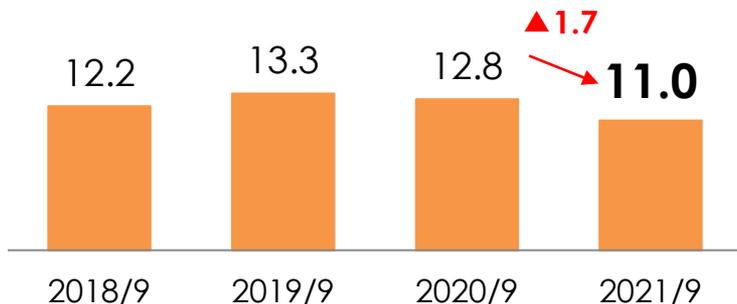
新仙台火力A線電線張替
(宮城県)



南京都新八幡線改良
(滋賀県)

兼業事業

■売上高（第2四半期累計） (単位：億円)



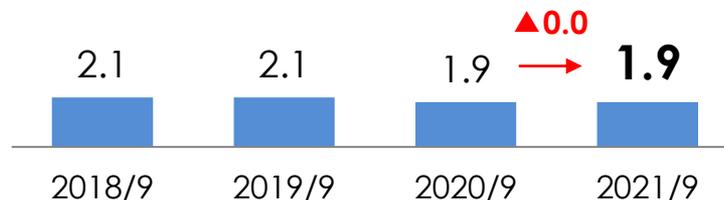
■売上高は11.0億円と前期比1.7億円の減少となった。

<兼業事業の内容>

- ・交通施設に関する標識及び交通安全用品の製造・販売業務
- ・建物・関連設備の保守管理業務、機械装置・仮設材関係の保守管理業務

不動産賃貸事業

■売上高（第2四半期累計） (単位：億円)



大崎ブライトタワー
(区分所有)



NRグランディール万代
(個人向け賃貸物件)



2022年3月期 連結業績予想

連結業績予想サマリー



■ 業績予想要旨

- 2022年3月期の業績については、**“売上高は前期比同水準、利益は減益”**を予想。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい受注環境が続くものの、当社グループは、公共性が高い社会インフラ整備事業が主体であることから、安全性や安定性に資する工事、設備の老朽化に伴う維持・更新など一定の受注を見込む。
- 売上高は上記工事に加え、北陸新幹線延伸工事をはじめとした複数年度に及ぶ大型プロジェクト工事の進捗・完成により、前期比同水準を見込む。
- 利益率は景気の低迷を受け、工事の受注条件が厳しさを増してきており、ここ数年と比較して低下するものと想定。営業利益は前期比9億円の減少、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比8億円の減少を見込む。

連結業績予想数値



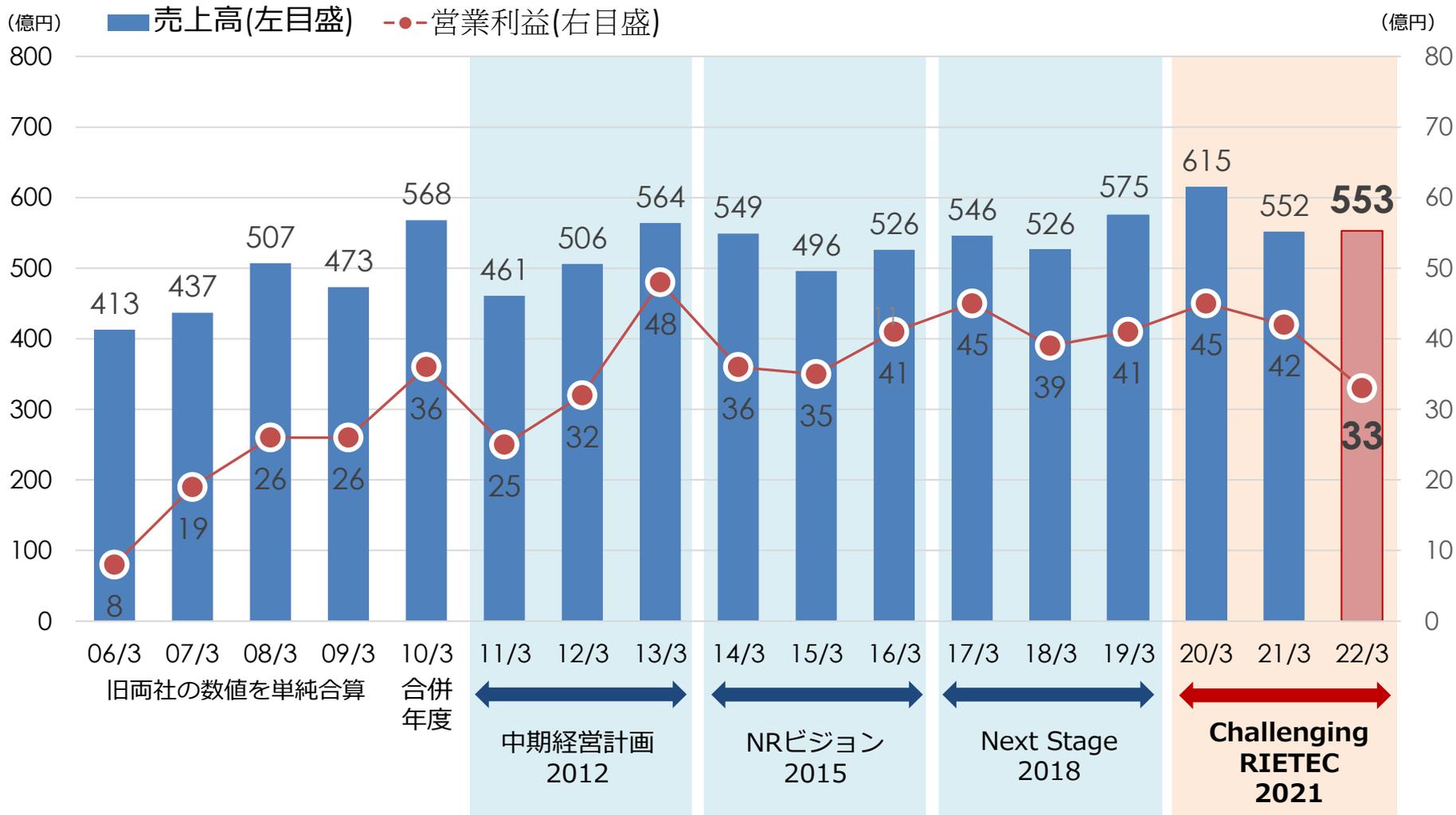
(単位：億円)

	2021年3月期 (実績)		2022年3月期 (予想)		前期比
売上高	552		553		+1
営業利益	42	7.6%	33	6.0%	▲9
経常利益	47	8.6%	34	6.3%	▲12
親会社株主に帰属する 当期純利益	32	5.9%	24	4.4%	▲8

※ 記載されている割合は、利益率を表しております。

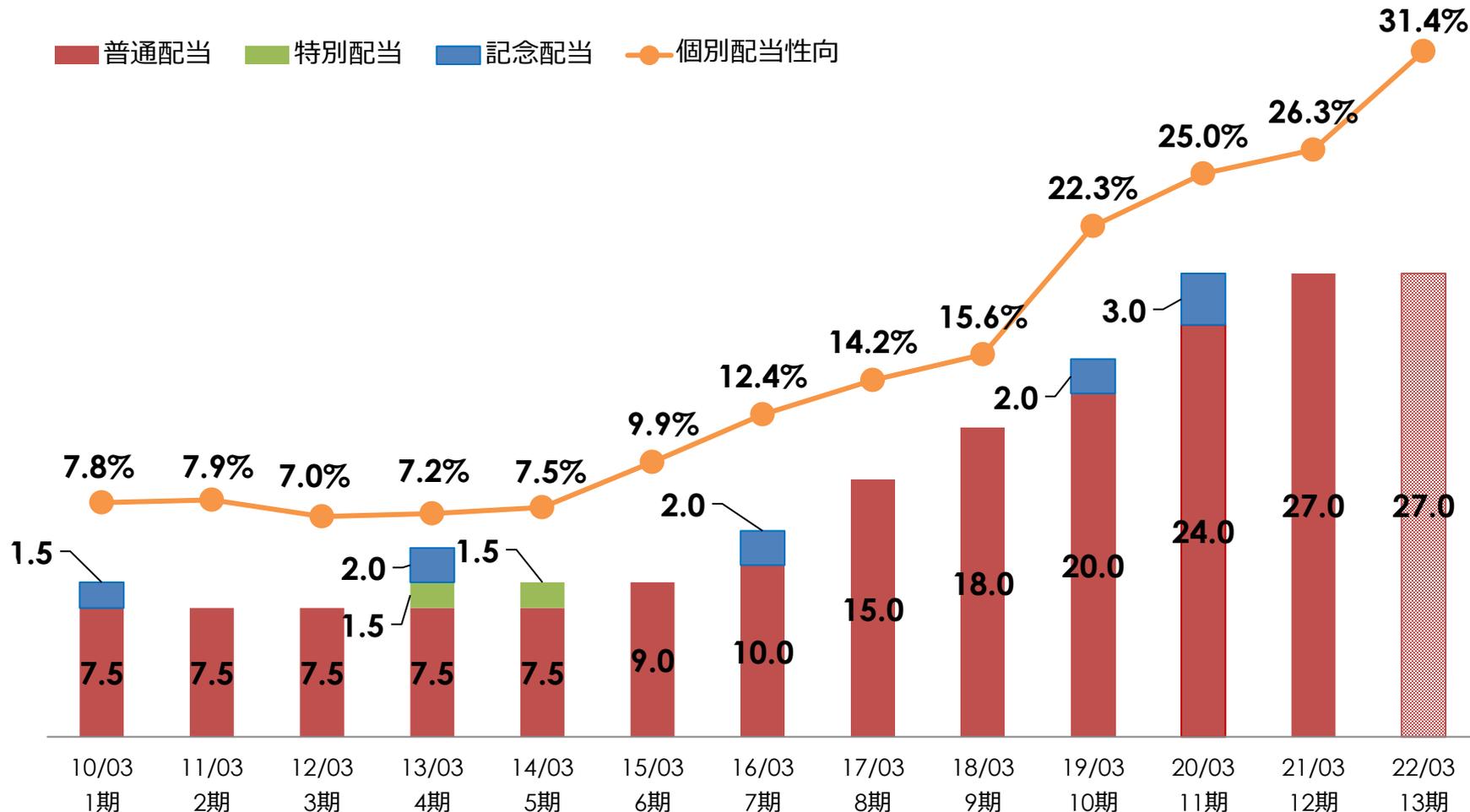
※ 前期比含め各数値は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率は単位未満を四捨五入しております。

売上高及び営業利益の推移（連結）



配当方針及び配当状況の推移

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けており、経営体制の強化ならびに将来の事業展開に備えるための内部留保を確保しつつ、配当性向にも配慮しながら安定的な配当を継続していくことを基本方針といたしております。こうした方針のもと、経営基盤と収益力の伸長に努め、個別配当性向30%を目指してまいります。



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、日本リーテックグループが現時点で入手可能な情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

なお、異なる結果となった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますので、ご了承ください。

(お問い合わせ先)

日本リーテック株式会社
経営企画部 広報・IRグループ

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-6
T E L : 03-6880-2740
F A X : 03-6880-2750
H P : <https://www.j-rietec.co.jp/>